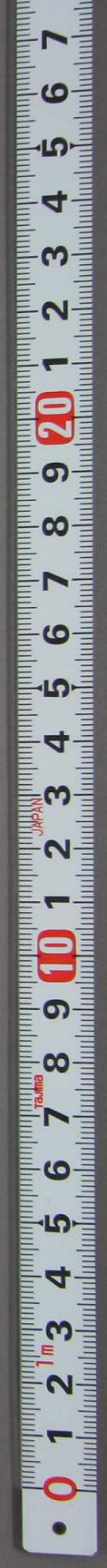




マコビシ市街并建家
之儀有定則申出之禱文

4295



414
A3908



大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

東京府下ノ市街及家屋造作
ノ儀ニ付至當ノ定則

新規市街ノ幅並ニ平面

第一 新規ノ市街毎ニ廣メ出シ且其所
々ニ望シテ市中評議役人ノ決意ニ出ル
如ク平面ヲ作ルベシ

本通町ハ是ヲ廣メ其幅六十ヒートヨリ
少カラザルベシ加之兩側ニ於テ十二ヒートノ

二
三

歩行路アルベシ

第一等ノ市街ハ是ヲ廣メ其幅五十ヒ
トヨリ少カラザルベシ加之兩側ニ於テ十ヒ
トノ歩行路アルベシ

第二等ノ市街ハ是ヲ廣メ其幅四十ヒト
ヨリ少カラザルベシ加之兩側ニ於テ九ヒトノ
歩行路アルベシ

第三及第四等ノ市街ハ是ヲ廣メ其幅

二十ヒトヨリ少カラザルベシ加之兩側ニ於テ
七ヒトノ歩行路アルベシ

何レノ市街ヲ本通トシ又ハ第一等第二等
第三等第四等ノ町トスルハ評議役人
ヨリ決出スヘシ

凡テ車道無之新規ノ市街ハ是ヲ廣メ
其幅十八ヒトヨリ少カラザルヘシ且其市街
ヨリ大幅ノ市街ニ出ルニ少クモ一箇ノ入路

アルヘシ但シ何レノ市街ニテモ長サ百ヒートニ過
ルハ何レノ市街ヲ廣メ出シ又ハ廣メ出サスシテ
車道ニ備フル幅ヲ作ラサルヲ決スルハ常ニ評
議役人ノ撰權ニアルヘシ

時ニ望ニテ町幅ノ改革

第二 凡テ新規市街ノ片側又ハ兩側ニ
沿ヒ家屋ノ前面ニ當リ其家々ノ惣長サ
丈テ明地ヲ残スヘキ時又ハ惣テ重立タル新

規ノ市街或ハ住家ニ相近ク所ノ市街
ノミニ於テハ評議役人ヨリ此ニ記シタル町
幅ヲ減却スルヲ許スヘシ且車路ヲ作ル
作ラサルヲ又ハ此後作ルヘキ車路ハ其幅二十
ヒートヨリ少カラサルヲ定ムベシ

町幅ノ儀ハ凡テ其所ノ突出物又ハ踏段ヲ
除キ往來ニ當レル惣地面ヲ取り其町筋ニ
直角ニ於テ間尺ヲ打ツヘシ

市中建家ノ高サ

第三 凡テ市街ノ側ニ建ツヘキ家屋ハ其高サ
其家屋ノ前面ヨリ其町ノ向側マテノ距離ニ
越エベカラス又ハ車道ニアラハル町ナレハ其町ノ三
ヒートノ内ニ建ベカラス又ハ凡テ箇様ニ造リ建
タル家屋ノ高サハ其后何時ニテモ右ノ距離
ニ越エベカラス

建家ノ高サヲ算出スルニハ其家ノ直前ニ當リ

市街中央ノ平面ヨリ^ハ護壁^バ迄又ハ梯子ヨリ
屋上ノ^ケ窪^フ所ニ^ニ迄間尺ヲ打ツベシ

新規市街ノ水利

第四 企タル市街ノ平面ハ幅ノ儀ニ付評議
役人ヨリ應許ヲ受済ム片ハ政府ヨリ至当ニ
撰任サレタル人ヨリ深サ、傾キ、形状、大小、品物、
其余水道等ノ箇條ヲ品定スヘシ尚又便所
灰場、尿器、其余公私ノ便利筋并、汚水、

糞類、垢塵、灰類、屑物、ノ受集場所ノ設
備、為井場、明地、圍場、等ノ造方ニ付其深サ、
形状、大小、品物ヲ品定スヘシ

市街ノ造方

第五 凡テ市街製作ノ法式並ニ入用品物ニ
至テハ政府ヨリ撰任サレテ至當ニ其權ヲ受ケ
タル人ノ應許ニ屬スヘシ

壁ノ厚サ及壁ニ用ユル品物

第六 凡テ家屋ノ外壁ハ石或ハ煉化石等燃
ハ難キ品物ヲ以テ堅固ニ造ルヘシ其壁ノ厚サハ
上階ヲ十四インチヨリ少クセス下階ヲ十八インチ
ヨリ少クスヘカラス

二階又ハ三階以上ノ家毎ニハ皆同様、外壁ノ内
側ニ於テ材木又ハ鉄ノ仕組ヲナスヘシ尤モ次
ノ第九條ニ記セル規則ニ従フヘシ

家屋ノ基礎

第七 家屋ノ基礎ハ堅實ナル土地煉合物
又ハ許儀後人ノ許シニ應ニテ他ノ堅實物ヲ
以テ支ユヘ其基礎ノ深サハ右ニ記シタル家屋
ノ下階ニ於ル壁ノ厚サノ二倍ヨリ少カラサルヘシ
右基礎最下ノ層ハ右ニ記シタル下階ニ於ル壁
ノ厚サニ二倍ヨリ少カラサルヘシ又右基礎上層ノ
高^ク及厚^サハ上面ニ向テ從テ漸次ニ減却スヘシ
屋上ヲ貫キタル壁

第八 凡テ屋上又屋谷ノ他家ニ接スル所ノ界
壁ハ其屋上又ハ屋谷ノ上ニ突起セシメ十二インチ
ヨリ少カラサルヘシ高^サノ保護壁ヲ造ルヘシ其高^サ
ヲ測ルニハ屋根ノ傾面ニ直角ヲ其屋根ノ葺
物ノ上又ハ其屋谷ノ最上部ノ上ニ於テスヘシ

外壁及界壁ノ木組

第九 窓戸ノ木組ヲ除ク外、外壁ノ外面
九インチ内ニ小材ノ梁木等ノ木組ヲ用ユヘ

カラス

凡テ隣家ノ間ノ界壁ニ於テ固住シタル小
材ノ梁木等ノ木組ハ隣家ノ小材ノ梁木
等ノ本組ニ向ツテ長ク九インチヨリ出スハカラス

屋根

第十 戸ハ戸組、天窓、及窓組、等ノ造
方ヲ除クノ外凡テ建家ノ屋根又ハ平面
又ハ天窓等其処ニ関係シタル作方ハ燃へ

カタキ品物ヲ以テ外部ヲ掩フヘシ但シ事
故アリテ市中評議役人ヨリ是ヲ許ル
セハ格別ノコトナリ

烟出シ及烟筒

但シ入用
ナレハ

第十一 煉化石又ハ石等其他燃へカタキ
物質ニテ造リタル煙出シハ若シ壁ノ厚子ヲ
ヨリ修計ニ壁ヨリ突出セサレハ下階天井
ノ平面ノ上ニ蓋付クベシ然レモ凡テ烟出シハ

堅固ナル基礎ヲ以テ支へ壁ヲ支ル所ノ
基礎ニ同シキ基礎ノ上ニ作立ツヘシ
煉化石又ハ石又ハ鍊鉄ニテ作りタル弓
形庇ヲ以テ烟出シノ穴ゴトニ其上ヲ掩ヒ
破壊ヲ防セクベシ其穴ノ廣サ三ヒート
六インチニ過レハ鉄板ヲ以テ結住シ是
ヲ上ニ曲ケ其端ヲ下ケ烟出シノ側ニ
留メベシ

凡テ烟筒ノ内面ハ火ノ透ラサル質物ノ筒
ヲ以テ掩フヘシ
凡テ烟出シノ縁ハ其穴ノ兩側ニ於テ四インチ
ヨリ少カラサルベシ
凡テ烟出シ及ヒ烟筒ノ前面ハ其厚サ四インチ
半ヨリ少カラサルヘシ
凡テ烟筒ノ裏面ハ其厚サ四インチ半ヨリ
少カラサル可シ又何レノ火焚場又ハ何レノ

烟筒ノ内面タリニ其壁ノ中央ニ出ル一ニイチ
ヨリ多カラサル可シ

凡テ烟筒ノ上端并ニ下底ノ厚サハ其層地
平ト四十五度ヨリ少キ角度ヲナスナレハ九イチ
ヨリ少カラサルヘシ

凡テ烟出ヲ集ムルニハ煉化石又ハ石ヲ以テシ九イチヨリ
少カラサル厚サヲ周圍ヨリ集テ上テ屋上ヲ越テ一
ニヒートヨリ少カラサル高サニ至ルヘシ

凡テ煉化石造又ハ石造ノ烟出ニハ凡テ
蒸気機関、醸酒家、滴流場又ハ製衣
造場ノ竈ニ非レバ其処ニツキタル屋上又ハ
屋谷ノ上ニ出ル一其屋上又ハ屋谷ノ最
高処ヨリ測テ其烟出ノ最狭ノ幅ニ四倍ニ
等シキ高サヨリ高カラサルベシ

凡テ烟出シノ口前ニ当リ各階ノ床ト平
面ニ其口ノ廣サヨリ長キ一少クモ十二イチ

工學寮
ニシテ其前面ノ幅十二イニチヨリ少カラザル
平石又ハ石板質ノ石ニテ之ヲキ燃、雜
キ質物ヲ置クベシ
最下ノ床ヲ除ク外一床毎ニ石又ハ鉄ノ
支物ノ上又ハ煉化石壁梁ノ上又ハ煉土
ニテ三層ニ作り瓦上ニ平板ヲ一面ニ
敷クベシ然レモ最下ノ床上ニ煉化石作
リノ枕上ニ之ヲ置クベシ

凡テ烟出ノ大焚場ハ煉化石又ハ石等燃
、雜キ質物ノ上ニ一面ニ作り且其次焚
場ノ上面ノ処ヨリ下、四イニチノ厚ササニテ
堅固ニ造ルベシ

材木并木組ヲ用エベカラザル事

凡テ大焚場ノ内面又ハ烟出ノ口ニ九イニチ
ヨリ近キ壁又ハ烟出ノ前面
煉化石造又ハ石造ノ厚サ九イニチヨリ少ケル

煙出又ハ火焚場ノ周圍ニハ右煉化石
造又ハ石造ノ外面ヨリ二イナ内

火近キ場所并ニ熱湯又ハ蒸氣
ヲ通スルルノ管類ニ付下條ノ規
則ヲ心得ベシ

高法製衣造物ノ為ニ用タル竈又ハ火焚
場ノ下ニ當ルル所并ニ其周圍十八イナ
内ニアル所ハ燃、雜キ質物及ヒ不導温体

質物ヲ作ルベシ

煙、温氣、蒸氣、熱湯、ヲ通スル所ノ管
類ハ狹路又ハ官道ニ沿ラズン建家ノ向ニ
着クベカラズ

煙又ハ燃ユベキ質物ヲ通ズル管類ハ燃ユ
ベキ質物ノ如ク六イナヨリ近ク着クベカラ
ズ

第十二 煉化石又ハ石又ハ其他同様ノ

質物ニテノ作タル壁毎ニ好キ煉土ヲ
以テ總部分ラヨク堅固ニ固メ其壁ハ
何レノ所モ壞墜セザル様ニスベシ

空氣ノ流通ヲ得ル為ニ建家ノ側ニ
コレアル充分ナル地面希ニ家屋ノ通
氣法建家ノ側ニ見地面

第十三 住家トシテ建用ヒタル家屋毎
ニ其前面又ハ其片側ニ於テ別ニ其家ニ
屬シテ凡テ建物己ナキ空地アルベシ但
總部屋ニ光ヲ末ラズ且空地ヨリ空氣
通セザル時ノミ其空地ヲ作ルベシ其空

地ノ廣サハ其建家ノコレアル地面ノ廣サノ
 四分一ヨリ少ナカラザルベシ

其空地ノ地面ト何レノ方向ニテモ其直
 經ノ廣サヲ其建物ノ高サニ比例スレバ
 次表ニ示ル所ノモノヨリ少カラザルベシ

建家ノ高サ	空地ノ地面	直經ノ廣サ
一階	百五十平方ヒート	七ヒート六インチ
二階	二百平方ヒート	十ヒート

三階 三百平方ヒート 十五ヒート

此高サハ地床ノ線ヨリ建物ノ最高部迄ヲ
 測リタルナリ

前文ノ規則ヲ用エヘカラザル建家又ハコレヲ
 用エル時ハ多分ノ賦立座ヲ廢損スル時ハ
 評議役人ノ差圖ニ隨ヒ改革
 スベシ

家屋ヲ作ルヘカラザル地面

第十四 何レノ空地タリトモ凡ク家屋ヲ作ラザル様明ク残シ置ク所ニ造家ノ権ヲ得タル評議役人ノ許ヲ得ザレバ再ニ建築スルヲ克ハサル可シ

部屋ノ高サ

第十五 何レノ建築ス可キ家屋タリ凡ク屋根下ノ部屋ヲ除クノ外ハ住居ノ部屋毎ニ各所ニ於テニ床ヨリ天井ニ至ルノ間

其高クセヒート六イニチヨリ少カラサル可シ且其建家ノ屋根下ニ当ル住居部屋毎ニ床ヨリ天井迄ノ高サハ凡クハヒートヨリ少カラサルヘシ

窓

第十六 住居部屋毎ニ少クモ窓モテ又ハ明キ口モ臺ヲ所アルヘシ且窓又ハ明キ口ノ惣廣サハ桁組ヲ除キ模様ニ因リ其

部屋毎ノ廣サノ十分一ヨリ少カラサルベシ
尚又其窓又ハ明キ口ノ上端ハ一箇丈
リトモ高サセヒ一ト六インチノ部屋ノ
床上ニ出ル一六ヒートヨリ少ナカラサル
可シ窓ニ少クモ半分ハ充分開ク様ニ作り
且其窓又ハ明キ口ハ向後評議役人ヨ
リ格段ニ令スルニ非ラサレハ固開スル一
能ハサルヘシ

小部屋ノ風入レ

第十七 此後百ニ多ペルヒートヨリ少キ住居
部屋毎ニ空地ナケレハ風道ヲ以テ別段ノ風入
レヲ備フ可シ右シ否ラサレハ右評議役人
ノ決意ニ出ル如ク風入レヲ作ルヘシ

公然建物ノ風入レ

第十八 明キ新規ノ公然建物毎ニ風入レ
ヲ備ル一右評議役人ノ應許ニ從タカフ

可シ

新規家屋ノ落成證書

第十九 凡テ新規ノ家屋ニハ評議役人
欲又ハ其家ハ人民ノ住居ニ不足ナクお應
シ且前条ノ造法ニ叶ヒタルヲヲ検査直シタル
后住居免許ノ證書ヲ與フル權ヲ得タル
官負ヨリ證セザル迄ハ住ムヲ能ハサルベシ

人民ノ住居ニお當セサル建家

第二十 如何様ノ時ニテモ家屋又ハ家ノ

部分ニ於テ人民住居ニ相當セザルヲ
評議役人ヨリ明證スレバ評議役人
ヨリ家屋又ハ家ノ部分ニ於テ明カニ説
シタル法令ニ因リ其家ハ人民住居ニ不相
當ナレバ此内ニ登記シタル日ヨリ後ハ住居相
叶ハザルヲ達ス可シ且ケ様相記シタル後
ニ人ニ借シ又ハ住居シ又ハ苦害アルヲ知

工學寮
リツ引続キ借シ又ハ住居スル所ノ者アラ
バ其家宅又ハ家ノ一部ニ付其罪科毎ニ
評議役人ノ差因通リニ罰金ヲ申付ク
ベシ且其家ハ若モ右評議役人ヨリ申
付タル後何時ニテモ人ノ住居ニ適当セ
バ之レヲ借シ又ハ住居セシメ其達令ヲ廢
シテ向後其用ヲナササル様ニスベシ

千八百七十二年四月十九日

東京工部省測量司
マエビーン

